



八戸ブックセンター 企画事業報告書 (令和3年度版)

まちづくり文化スポーツ部
文化創造推進課 八戸ブックセンター



八戸ブックセンター
HACHINOHE BOOK CENTER

目次

八戸ブックセンターの基本方針	1
取り組みの全体像	2

本を読む人をふやす

(1) アカデミック・トーク	3
(2) セレクト・ブックストア (本の陳列・販売)	4
(3) 学校との連携 (小学校との連携)	5
(4) 学校との連携 (高校・大学との連携)	6
(5) 読書会ルーム	7

本を書く人をふやす

カンヅメブース	8
---------	---

本でまちを盛り上げる

(1) ギャラリー展示	9
(2) パワープッシュ作家	10
(3) ブックサテライト増殖プロジェクト	11
(4) フリーペーパー「ほんのわ」	12

・クラウドファンディング 本のまち八戸子どもプロジェクト 「子どもたちにたくさんの本と出会ってほしい！」	
・Library of the Year 2021 「特別賞」受賞	13

参考データ① 令和3年度八戸ブックセンター決算額	14
--------------------------	----

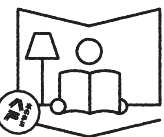
参考データ② 来館者数、販売冊数・販売額の推移	15
-------------------------	----

八戸ブックセンターの基本方針

八戸ブックセンターは、全国初の、まったく新しい書店のかたちです。

1. 本を読む人をふやす

八戸ブックセンターは、本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたくなるような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントの開催などを行います。



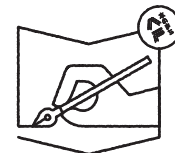
3. 本でまちを盛り上げる

本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものでもあります。八戸ブックセンターは、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。



2. 本を書く人をふやす

当市は、三浦哲郎という偉大な作家を生んだ土地でもあります。八戸ブックセンターは、本を「書く人」を増やすために、執筆するためのブースを備え、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催などを行います。



八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、あたらしい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行していきます。

取り組みの全体像

民間書店

- 民間書店で取り扱いにくい本を八戸ブックセンターで揃えるなど差別化・補完することで、市民が本に出会う環境を豊かにします。
- 八戸ブックセンターがハブとなり、民間書店（員）の連携・交流の機会をつくるほか、市外の個性的な書店経営者を招いた勉強会などの機会を通して、民間書店の魅力づくり強化のための支援を行います。
- マイブック推進事業（ブッククーポン）を通し、民間書店での本の購入を促進します。

八戸ブックセンター

本の販売という単一の機能に留まらない、
本を通した市民交流およびまちづくりの拠点施設としての3つの機能。

本を読む人を ふやす

様々な形態の読書会や、講師を招いての本にまつわる講座など、本に出会う機会を様々に演出します。

本を書く人を ふやす

執筆スペース「カンヅメブース」の設置や、本の執筆・出版に関する学びの場の提供のほか、出版などの相談を受け付けます。

本でまちを もりあげる

本を介し、交流や賑わい、他施設との連携による回遊など相乗効果を生み出す多彩な企画を実施します。

連携や
サポート

連携や
サポート

本を販売する

新刊書籍／ビジネス／絵本・児童書
趣味・実用書／エンターテインメント参考書
雑誌・コミック等の販売

文学・評論／ノンフィクションアート・建築
人文・思想サイエンス・紀行等
テーマ別に陳列するセレクトブックストア

「マイブック推進事業」／小学生対象

「ブックスタート事業」／乳幼児と保護者対象

おすすめ本リスト
「本はともだち」を
ブックセンターで作成

本を貸す

公立図書館

- 八戸ブックフェスなど企画での連携を図ります。
- 絶版本など購入が出来ない書籍への問合せに対応した情報提供を行います。

学校（図書館）

- 市内小中学校を訪問しての「出張ブックトーク」を行います。
- 高校生対象の読書ワークショップや文芸大会の連携を行います。
- 八学大、八戸高専学生が学校図書館の本の選書をするブックハンティングなどを実施します。

はっち・美術館などの 公共施設や民間施設

- 公共施設との企画連携による回遊促進など相乗効果を図ります。
- 市内の飲食、小売などの店舗、公共施設等に本棚を設置する「ブックサテライト」を展開します。

アカデミック・トーク



「三浦哲郎～師・井伏鱒二の思い出～」(ゲスト：県近代文学館 武永佐知子氏)

知的好奇心を刺激する

教育機関や文化施設から講師を招いての、本を軸にしたアカデミックなトーク。各分野からの専門的なお話により、本に対する興味を沸き立たせます。

幅広い世代の方に、「体験」も含めて

県内の文化施設などから、普段あまり聞くことが出来ない方を講師に迎えたトークや、体験ができる内容のイベントも実施しています。青森県近代文学館の三浦哲郎に関する展示についての話には年配の方が中心に参加され、理科教育コンサルタントの方による科学教室では、親子で科学実験の体験をするなど、子どもから大人まで、幅広い世代の来館に繋がっています。



「親子で楽しむ！夏休みわくわく科学教室」(ゲスト：理科教育コンサルタント 井上貴之氏)

令和3年度実施状況

- ・青森県近代文学館エクステンド常設展示「三浦哲郎～師・井伏鱒二の思い出～」解説 (ゲスト：県近代文学館 武永佐知子氏)
- ・リケジョに語る「山」の一般教養 (ゲスト：八戸高専 河村信治氏、森田奈々子氏)
- ・親子で楽しむ！夏休みわくわく科学教室 (ゲスト：理科教育コンサルタント 井上貴之氏)
- ・青森県立美術館常設展示「バレエ「アレコ」背景画」解説 (ゲスト：県立美術館 高橋しげみ氏)
- ・『一目散 豊島重之評論集』×青森県立美術館「東日本大震災10年あかし testaments」 (ゲスト：詩人 菊井崇史氏、ダンスバレエリセ豊島舞踏研究所 高沢利栄氏、県立美術館 高橋しげみ氏、集団たま代表 根本みを氏)
- ・寺山修司記念館企画展「書を捨てよ町へ出よう」解説 (ゲスト：寺山修司記念館 広瀬有紀氏)

セレクト・ブックストア

本を買って手にとるという体験

市直営施設がなぜ本を販売するのか

市内高校・大学との連携：「SDGsを深く知ろう」特設棚



品揃えを補完する（民間書店との棲み分け）

「売れ筋だけの取り揃えでは文化の多様性はますます先細る」という地方都市における大都市との文化格差課題を解消する取組み。

本との偶然の出会い（セレクトブックストア部門）

「出版物は全部置く」都心の大型書店とは異なり様々なジャンルの入口となる本を「敢えてセレクトして並べる」ことでこれから出会う未読ジャンルへの選択肢を提案している。

市内文化施設との連携（八戸市美術館開館）



パワープッシュ作家関連棚

（写真は、八戸出身作家・呉勝浩さんの棚）

学校との連携 《小学校との連携》

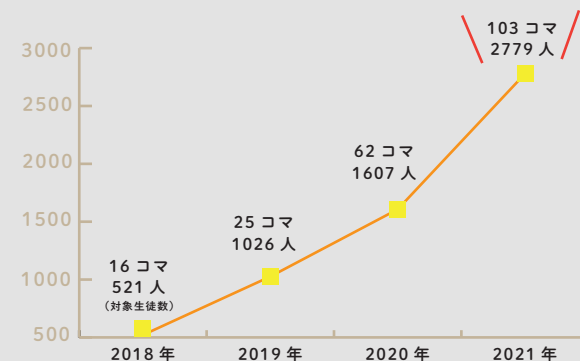


出張ブックトーク

学校図書館司書を中心に、八戸高専戸田山みどり教授、図書館職員、ブックセンター職員が市内の小学校を訪問し、おすすめの本を紹介しています。



実績) 年々申込数が増えています!



学校図書館司書研修会

ブックセンターで月1回行われる研修会では、子どもと本が出会える環境づくりを目指して、子どもの本についての意見交換や情報提供をしています。

小学生へ向けたおすすめ本リスト

ブックセンターが、戸田山みどり氏とともに主な選書を担当。2000円分のマイブッククーポンと共に、市内の全小学生へ配布。リストの紙は、地元の三菱製紙八戸工場の紙を使用しています。(協力・三菱製紙)



学校との連携 《高校・大学との連携》

本を読む時間がない高校生にも本を手にする体験を。

本を選んで手に取る体験づくり

高校生・高専生・大学生が、本と出合う場を創出する

(令和3年度実績)

ブックハンティング 八学大(10名参加)、八工大(5名参加)、八高専(8名参加)

※ブックハンティング：学校・大学図書館に配架する本を、ブックセンター内で生徒自ら選書するもの。



書いた作品を発表する

(令和3年度実績)

全国高等学校文化連盟北海道東北文芸大会の「文芸部誌分科会」において、八戸ブックセンターのギャラリー展で展示したプロの仕事内容などを紹介しながら、各校で制作している文芸部誌の編集・制作についての実践ワークショップを行いました。

北海道東北地区の23校、約100名が参加



公開講座での連携

(令和3年度実績)

ブックセンターを会場に公開講座を開催し、中心街への来街動機にも繋げています。

- ・公開講座「なぜ世界はこのように見えるのか」(講師：八工大 佐藤手織氏)
- ・公開講座「外国語習得の秘訣伝授！～中国語の場合～」(講師：八工大 山本忠氏)
- ・公開講座「リケジョに語る宇宙の謎」(講師：八高専 中村雅徳氏、淡路侑香氏)



施設の活用

読書会ルーム

市内読書団体などへの貸出のほか、ブックセンター主催の企画事業にも活用しています。



期間	貸館		自主事業	
	計	月平均	計	月平均
平成 28 年度 (H28.12~H29.3)	20 件	5.0 件	5 件	1.3 件
平成 29 年度 (H29.4~H30.3)	50 件	4.2 件	78 件	6.5 件
平成 30 年度 (H30.4~H31.3)	57 件	4.8 件	69 件	5.8 件
令和元年度 (H31.4~R2.3)	73 件	6.1 件	42 件	3.5 件
令和 2 年度 (R2.4~R3.3)	50 件	4.2 件	32 件	2.7 件
令和 3 年度 (R3.4~R4.3)	52 件	5.2 件	14 件	1.4 件

※令和 3 年度について、休館の期間があるため「月平均」は 10 ヶ月で算出

一般的な読書会だけではなく、短歌会やビブリオバトル形式の読書会など、多様な使い方があり、利用されている方からは、本に囲まれた落ち着いた雰囲気の中、館内の本を読むこともでき、気軽に利用できるとのご意見をいただいています。

施設の活用

カンヅメブース

本などを執筆したい人向けに貸出しており、
 利用するには、活動内容などを教えていただき、
 「市民作家登録」をしていただいています。

期間	市民作家登録者		カンヅメブース利用件数	
	登録者数	(累計)	計	月平均
平成 28 年度 (H28.12~H29.3)	77 名	77 名	65 件	16.3 件
平成 29 年度 (H29.4~H30.3)	66 名	143 名	174 件	14.5 件
平成 30 年度 (H30.4~H31.3)	51 名	194 名	153 件	12.8 件
令和元年度 (H31.4~R2.3)	41 名	235 名	204 件	17.0 件
令和 2 年度 (R2.4~R3.3)	24 名	259 名	278 件	23.2 件
令和 3 年度 (R3.4~R4.3)	15 名	274 名	190 件	19.0 件

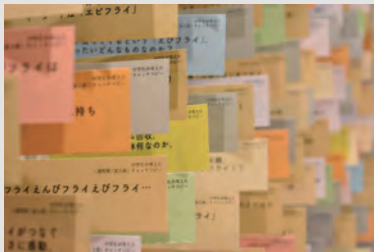
※令和 3 年度について、休館の期間があるため「月平均」は 10 ヶ月で算出



趣味として執筆している方のほか、小説やエッセイを執筆するプロの作家、ライターの方など、幅広い利用があり、利用されている方からは、執筆に集中できるだけでなく、気分転換に館内の本を読むこともでき、他では体験できない空間とのご意見をいただいています。

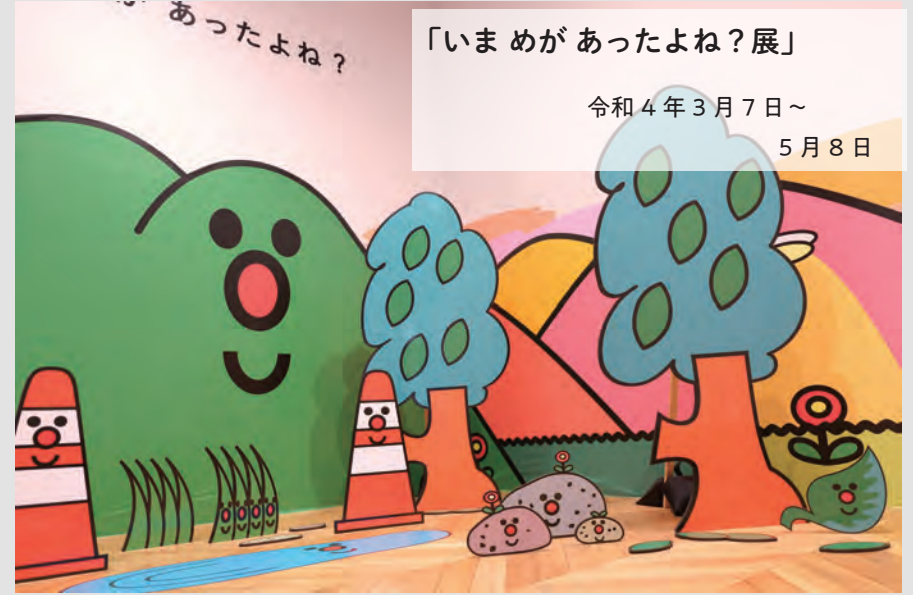
ギャラリー展示

本そのものに興味をもってもらおう



八戸の「ひと」「本」を知り 興味をもってもらおう

八戸出身の作家・三浦哲郎の生誕 90 周年・芥川賞受賞 60 周年を記念し、中高生を中心とした幅広い世代の人たちに三浦哲郎の作品に触れてもらい、長く読み継がれていかれるよう、様々なジャンルから再解釈してもらい、作品として展示しました。



八戸出身のデザイナー、西川◎友美さんの絵本刊行にあわせ、子どもを含めた全世代の来館を促すよう、絵本の世界観をギャラリー内に展示しました。

パワープッシュ作家



「地元の作家・作品」を盛り上げる

地元在住・出身の作家や地元に関する作品を幅広く紹介し、「本のまち八戸」を盛り上げる企画のひとつとして実施しています。

令和3年度実施状況

- ・八戸出身作家・呉勝浩 第165回直木賞発表&受賞者記者会見 生放送パブリックビューイング（ノミネート作品発表後から、NHKBS 番組「決戦！タイムリミット 第2弾文学賞スペシャル」の制作に協力し、ブックセンターの取り組みを紹介いただきました。）
- ・三戸在住作家・高森美由紀 ～『山のふもとのブレイクタイム』『柎先生の小さなキッチン～雨のち晴れの林檎コンポート～』W刊行記念イベント「高森美由紀さんと楽しむクリスマス」



「高森美由紀さんと楽しむクリスマス」では、高森さんのトークイベントのほか、市内の飲食店に協力してもらい、物語に登場する料理を再現・販売し、違った視点からの本の楽しみ方を提案するイベントとなりました。

ブックサテライト増殖プロジェクト

市民が本に触れる機会をつくる



市内全域に広がる 本棚スポット

市内の小売店や飲食店、公共施設に呼びかけ、「ブックサテライト」として小さな本箱を設置。本箱の中にはそれぞれの施設に合わせた選書をしており、ちょっとした時間を過ごすところに、その場所にあった本がある「まち」を目指します。

各施設からは、お客様の待ち時間を豊かにしているとの嬉しい報告をいただいています。



ブックサテライト参加店舗

- ・ドトールコーヒーショップ八戸十三日町店
- ・スターバックスコーヒー（八戸田向店、八戸城下店）
- ・八戸市水産科学館マリエント
- ・青い森信用金庫
(本店営業部、湊支店、廿三日町支店、根城支店、
河原木支店、南類家支店、鍛冶町支店、中居林支店、湊高台支店)
- ・八戸市博物館
- ・八戸市立市民病院周産期センター
- ・八戸市美術館

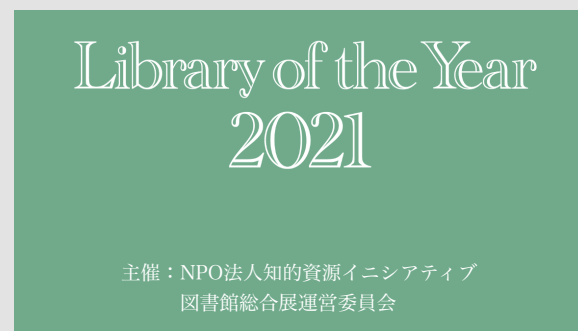
クラウドファンディング 本のまち子どもプロジェクト 「子どもたちにたくさんの本と出会ってほしい！」

市内小学校の図書室に、市内書店では手に入りにくい本を中心に選書、配架することにより、子どもたちに新たな本との出会いを創出するなど、図書室の環境整備を目的にクラウドファンディングを実施しました。



Library of the Year 2021 「特別賞」受賞

これからの図書館のあり方を示唆するような先進的な活動を行っている機関に対して、NPO 法人知的資源イニシアティブが授与している賞「Library of the Year」において、八戸ブックセンターが「特別賞」を受賞しました。
(2006年から毎年開催しており、2021年で16回目)



八戸ブックセンター

■授賞理由

本を読み・書き・話すことで本好きを増やす本のある暮らしの拠点

■授賞理由の詳細

本のある暮らしの拠点となることを八戸市民とともに目指し、「本のまち八戸」を活動理念に掲げている。八戸市内に本を読む人や書く人を増やすために、公共図書館・民間書店・学校などと相互補完的・互恵的な関係を構築することで、本の提供と本を享受するための社会的基盤として整備している。昨今の地方都市では、その数を徐々に減らしている「本のある環境」の一つとしての書店を、公立運営という形態によって継続性を持たせていることは特筆に値する。本を読むための環境整備だけでなく、本について語り合うことや本の執筆サポートなど、これからの時代にふさわしい公共サービスのあり方を構想し、市民に提供している点を高く評価しました。

Library of the Year 2021

2

クラウドファンディング結果

募集期間 令和3年11月1日～令和4年1月30日
寄附件数 63件
寄附額 1,305,000円（目標額：2,200,000円 達成率：59.3%）

事業実施内容

令和4年6月に市内全小学校（42校）に、1校あたり33冊の本を購入して配架しました。

（目標額との差額は、ふるさと寄附金などを活用して計画通りの本を購入。）

これらの本は、学校図書館司書を中心に図書館・ブックセンター職員が各校を訪問し、おすすめの本を紹介する「出張ブックトーク」にも活用しています。

受賞理由（主催者発表内容）

《参考データ》 八戸ブックセンター決算額（令和3年度）

【歳入】

単位：千円

科 目		金 額
事業に伴う収入	使用料	ブックセンター使用料（ドリンクスタンド分） 277
	寄付金	ブックセンター事業費寄付金 13,310
	諸収入	電気等使用料 60
		書籍売上収入 10,599
		その他雑入（社会保険料等） 2,201
小 計		26,447
一般財源（税等）		66,422
歳入合計		92,869

【歳出】

A. 選書、企画事業の実施に係るもの

単位：千円

科 目		金 額
人件費	職員3名、会計年度任用職員4名	42,402
報償費	自主事業謝礼	1,245
旅費	自主事業等旅費	248
需用費	食糧費	2
役務費	通信運搬費	632
委託料	企画事業業務等	4,766
合計		49,295

B. 本の販売等に係るもの

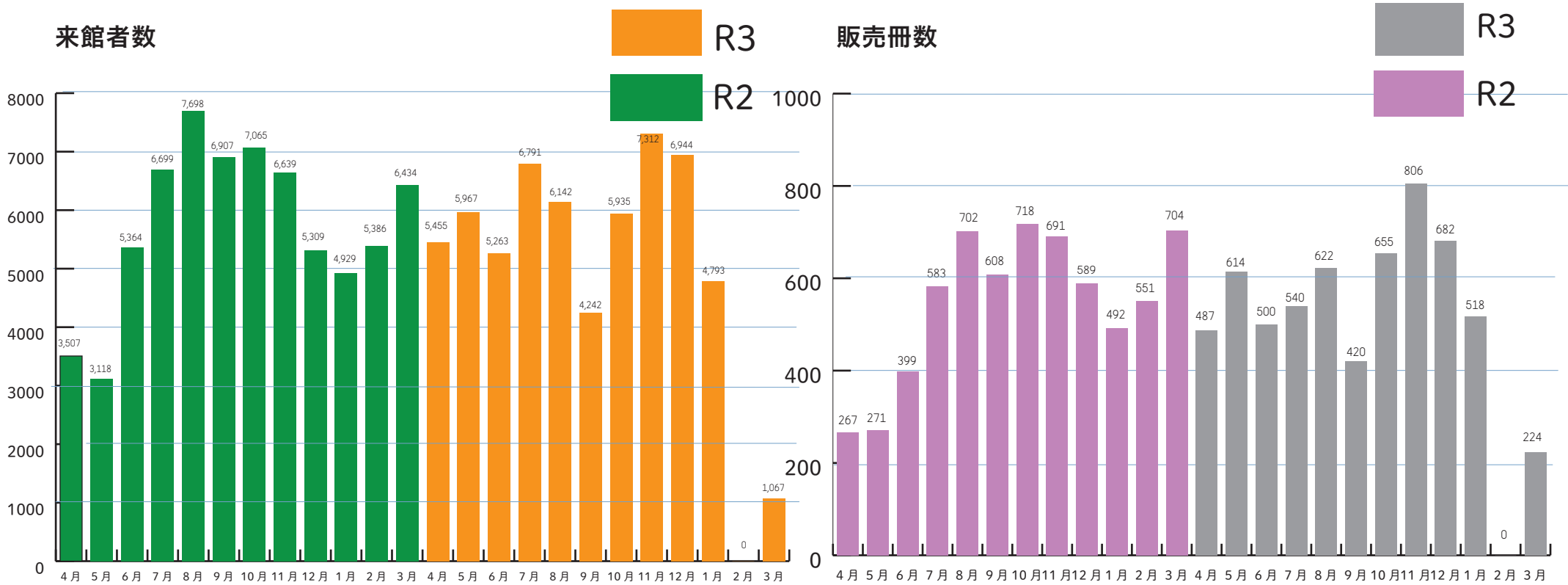
科 目		金 額
役務費	手数料（クレジットカード決済手数料）	159
委託料	書籍等仕入販売返品業務委託料	22,021
	（うち書籍仕入分）	8,381
	（うち販売返品業務等分）	13,640
合計		22,180

C. 建物の維持管理及び一般事務経費に係るもの

科 目		金 額
需用費	消耗品費	489
	印刷製本費	38
	光熱水費	1,038
	修繕料	274
	小 計	1,839
役務費	火災保険料等	78
	小 計	78
委託料	清掃、廃棄物収集運搬業務	2,138
	その他（ホームページ運用保守業務等）	621
	小 計	2,759
使用料及び賃借料	建物等借上料	15,344
	その他（複写機使用料等）	1,156
	小 計	16,500
備品等購入費	庁用備品等購入費	218
合計		21,394

歳出合計A+B+C 92,869

《参考データ》 来館者数、販売冊数・販売額推移



※令和2年4月29日～5月10日、令和4年1月25日～3月22日の期間は、新型コロナウイルス感染症の影響により休館

※令和2年4月29日～5月10日、令和4年1月25日～3月22日の期間は、新型コロナウイルス感染症の影響により休館

	累計	月平均	1日平均
平成29年度	114,599人	9,550人	368人
平成30年度	125,983人	10,499人	406人
令和元年度	109,560人	9,130人	355人
令和2年度	69,055人	5,755人	232人
令和3年度	59,911人	5,991人	230人

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出

販売冊数	販売冊数	月平均	1日平均
平成29年度	7,143冊	595冊	23冊
平成30年度	8,333冊	694冊	27冊
令和元年度	8,948冊	746冊	29冊
令和2年度	6,575冊	548冊	22冊
令和3年度	6,068冊	607冊	23冊

販売金額 (書籍のみ)	販売金額	月平均	1日平均
平成29年度	10,516,785円	876,399円	33,816円
平成30年度	12,620,094円	1,051,675円	40,710円
令和元年度	13,489,446円	1,124,120円	43,655円
令和2年度	10,694,146円	891,179円	35,886円
令和3年度	9,672,553円	967,255円	37,202円

※令和3年度について、休館の期間があるため「月平均」は10ヶ月で算出